

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：		学域名：		部局長名：	
工学部		環境生命自然科学学域(工)		高橋規一	
目 標			目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等		
①教育領域		関連する 中期計画の番号	教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
1. 優れた学生に入学してもらうため、学校推薦型選抜と一般選抜における志願倍率2.0以上を維持する。		(2-1)	1. 学校推薦型選抜の志願倍率は約2.4であり、昨年度の約2.2から上昇した。一般選抜の志願倍率も約2.4であり、昨年度の約2.2から上昇した。特に一般選抜では、すべての系とコースで志願倍率が昨年度を上回った。		
2. 国際通用性をもった学生を育成するため、工学部独自の海外研修プログラムDIG, HUGを実施するとともに、今年度より新たに多文化共修科目を実施する。		(7-1)	2. 工学部独自の海外研修プログラムDIG, HUGを計画通りに実施した。DIGでは9月15～21日の台湾研修に17名の学生が参加し、3月8～13日の韓国研修に10名の学生が参加した。HUGでは4名の学生がロードアイランド大学に短期留学した。また、工学部独自の多文化共修科目を新たに実施し、長庚大学(台湾)の3年生12名と本学部の4年生7名が受講した。		
3. 女子学生数増加に向けた取り組みとして、女子高校生向け工学部案内を発行する。また、女子枠入試を導入している他大学の状況を調査して効果を検証する。		(11-1)	3. 女子高校生向け工学部案内を計画通りに発行した。女子枠入試については、工学部入学試験委員会で近隣大学の動向を調査した上で、導入を見送るという結論を出した。その一方で、女子学生の学修環境を改善すべく、工学女子会を創設し、女子の理工系進路選択に関するシンポジウムや講演会を開催した。なお、令和8年度の新入生に占める女子学生の割合は17.1%であり、令和7年度の17.8%からわずかに減少した。		
4. 新学習指導要領の下で学習した学生への対応を課題として、専門基礎科目等で内容変更の必要性を調査する。		(3-1)	4. 工学部教務委員会において、各専門基礎科目の主査に対して授業内容変更の必要性を調査し、必要ないことを確認した。		
5. 教育の質を維持しつつ教員の負担を軽減するため、ICTを利用した複数教室での同時講義や、学習管理システム(MoodleやMicrosoft Teams)の積極的活用を推進する。		(4-1)	5. 15科目において、ICTを活用して複数教室での同時授業を行った。そのうち12科目が情報工学コースと情報工学先進コースを対象とするものである。教員の負担は軽減されるものの、教育の質の観点からは、一つの大規模教室で行う場合には劣る。次年度は工学部内に大規模教室を新設する可能性を検討する。		
②研究領域		関連する 中期計画の番号	研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
③社会貢献(診療を含む)領域		関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
1. 高校生の進路選択を支援するため、オンライン相談会、研究室見学会、優れた学生を出身高校に派遣するロールモデル紹介を実施する。		(6-1)	1. オンライン相談会を3回開催した。参加者は1回目(6月14日土曜日)が11名、2回目(7月12日土曜日)が17名、3回目(8月29日金曜日)が19名であった。研究見学会を6月28日に開催し、52名が参加した。ロールモデル紹介では、派遣先を昨年度から5校増やして20校に学生を派遣した。		
2. 高校の課題探究活動やDXハイスクール事業を支援するため、教員や学生を高校に派遣する。		(1-2)	2. 笠岡高校および倉敷南高校の探究活動の助言・指導を工学部として行った。また、DXハイスクール事業に採択された高校を支援するため、工学部DXハイスクールサポーターズ制度を創設した。7名の学生が登録し、延べ2名が倉敷青陵高校で活動を行った。		
3. 地域の技術力向上や文化活動の活性化を目指し、リカレント教育や公開講座を積極的に実施する。		(1-2)	3. 地元企業の技術者を対象とする「実践的AI・セキュリティ講座」に17名の工学部教員が講師として参加した。公開講座を8件開催した(1件は小学生が対象、4件は高校生以上が対象、3件は大学生以上が対象)。総合技術部が実施した11件の出前実験・体験教室(主に小学生が対象)を支援した。		
4. 地域課題の解決に貢献するため、企業や自治体のアクションプランの策定や活動に対して教員を派遣するなどして支援する。		なし	4. 地方自治体の多数の委員会に工学部教員が参画し、活動支援を行った。		
5. 工学部の女子学生を増やすための取り組みとして、中学生・高校生・保護者を対象とし、女性技術者・研究者の活動を紹介するシンポジウムを開催する。		(11-1)	5. 「工学系女子のキャリアを考えるシンポジウム」を開催した。内容は、①本学の工学部を卒業して技術者・研究者として活躍している女性3名による講演、②パネルディスカッション、③個別相談会、の3部構成。中学生、高校生、保護者など約60名が参加した。		
④管理運営領域		関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
1. 学部改組に伴う旧学部の早期廃止に向けた取り組みを行う。		なし	1. 令和7年4月1日時点では旧工学部生38名、環境理工学部生13名であったが、令和8年4月1日時点では旧工学部生15名、環境理工学部生10名になる見込み。旧工学部の学生数が約半分に減少したのに対し、環境理工学部の学生数はあまり減っていない。来年度はより適切な進路指導を実施する。		
2. 工学部のダイバーシティ推進のため、女性教員採用割合を向上させる。		(11-1)	2. 令和6年4月2日から令和7年4月1日までの新規採用者に占める女性割合が20%(15名中3名)であったのに対し、令和7年4月2日から令和8年4月1日までの新規採用者(予定を含む)に占める女性割合は0%(7名全員が男性)であった。全国の大学で工学系女性教員の奪い合いのような状況になっており、苦戦している。		
3. 情報工学先進コースの教育を着実に遂行するため、必要な教員の確保、研究室や設備等の整備、独自科目の充実を行う。		(1-3)	3. 教員2名の選考が進行中である。また、令和7年4月1日に着任した講師1名が家庭の事情で令和8年3月末に退職して他大学に転出するため、来年度中に後任の採用人事を始める予定である。情報工学コースと情報工学先進コースの共通科目を実施するための大規模講義室を確保することができていないので、来年度も継続して検討する。		
4. 地元企業や同窓生に工学部学生主体の活動を紹介し、工学部を寄付先とする寄付を依頼する。		(13-1)	4. 工学部初の試みとして、学生主体活動への寄付依頼文書を作成して地元企業と工学部同窓生に配布し、地元企業4社から計46万円と同窓生1名から1万円の寄付を受けた。		
5. 定年退職が短期間に多数発生するコースの教育を維持するため、採用ポイントの運用方法を環境生命自然科学学域と協力して整備する。		なし	5. 工学部の採用ポイントの中央化と再配分のルールを定めた。これによって、今後数年間に多数の教員が定年退職するコースを工学部全体で支援する体制が整った。		

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。